

8-4-1 統括技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

- ・開催数：6回（偶数月）

令和7年4月21日、6月18日、8月26日、
10月22日、12月23日、令和8年2月25日

(2) 統括技術委員会の横断的活動（主要議事）

- 8WG（①生産性向上WG、②維持管理対策WG、③業務体系WG、④公益活動WG、⑤業務研究発表会WG、⑥新しい生活様式の道路空間WG、⑦協調領域検討WG、⑧共通仕様書・歩掛改定WG）及び3技術委員会（国土基盤技術委員会、交通基盤技術委員会、社会マネジメント技術委員会）の活動を実施した。
- BIM/CIM関連で、CAD製図基準改定に対応し、電子納品チェックシステムのレイヤ名称の記載方法を作業者の生産性向上のため緩和した。設計段階における3次元モデルと2次元図面の整合確認方法を協会会員の意見を基に作成し、BIM/CIM取扱要領に反映した。
- 「道路橋メンテナンス技術講習」として、東京と大阪の同時開催で、専門講義（11/10～11/12）、現地実習（11/13）、達成度確認試験（11/14）を実施した。
- 道路橋示方書の改定に伴い、「設計の手引き」の執筆に参画した。
- 東京大学 i-Construction システム学寄附講座（協調領域検討会）にて、協調領域の範囲やその社会実装に向けた検討を行った。第5回協調領域検討シンポジウム（3/17）で連携。国交省「事業監理データ連携基盤検討会」に参画し、設計者としての意見を具申した。
- RCCM 自主学習システム専門委員会より要請を受け更新学習テキスト等を審議した（7/8）。
- 「第25回業務研究発表会」を企画・運営し、に発表者と審査員は発表会場にて、聴講者はオンライン形式にて開催した（論文応募数113編、発表論文32編）。優秀者には、最優秀賞（1名）、優秀賞（3名）、特別賞（4名）

を授与した。

- 新しい生活様式の道路空間について「道路空間活用シンポジウム」を開催（10/28）した。
- 未来塾対応WGの一環として、共通仕様書と歩掛改定要望について、国土交通省技術調査課と2回（6/17, 7/30）の協議を経て、河川構造物の操作室や上屋の建築設計の取り扱いの提議、道路詳細設計にある「設計延長1km未満の場合の延長補正」を道路概略設計・道路予備設計へ適用、仮設構造物の任意仮設と指定仮設の注記追加等の指摘・要望事項を説明し、改定要望一覧表を提出した（9/5）。
- 日本道路協会が進めている電子図書の販売について、具体的な活用方法に関する意見交換会（5/28）に参加し意見交換を行った。
- 国総研・土研との意見交換会（12/10）に参画し、要望と提案、多様な人材の育成・活躍の場の創出、生成AI・データプラットフォームの活用について意見交換を行った。
- 国土交通省道路局との意見交換会（11/14）における技術的テーマ資料として、「新しい生活様式の道路空間」、「WIZENET2050の推進」、「混在交通を有する道路空間のあり方」について資料を提出した。
- 国総研 研究評価委員（第一部会）として、研究成果に対し質疑応答を踏まえ、評価・意見具申を行った（7/3, 11/20の2回開催）。
- 国土交通省 国土技術研究会の審査委員として、国土交通省職員等の技術研究発表会の審査を行った（11/27, 11/28の2日間開催）。
- 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期課題「スマートインフラマネジメントシステムの構築」の推進委員会委員として意見を具申した（1/13開催）。

2. 次年度の活動について

- 8WG及び3技術委員会の横断的テーマの検討
- 技術部会指示事項の検討と技術部会への上程
- 国総研・土研との技術交流、意見交換会
- 白書・対外活動、未来塾WG等への参画、他
（統括技術委員会委員長 泉 典宏）